



(長野)

期から奈良・平安時代の堅穴住居と掘立柱建物、鎌倉

時代後期は、古墳時代後期から戦国時代にかけての複合遺跡で、
主な遺構は、古墳時代後期から奈良・平安時代の堅穴住居と掘立柱建物、鎌倉

長野・東條遺跡

ひがしじょう

- 所在地 長野県千曲市大字八幡字東條
- 調査期間 一〇〇七年（平19）四月～一月
- 発掘機関 長野県埋蔵文化財センター
- 調査担当者 岡村秀雄・小林秀行・市川桂子
- 遺跡の種類 集落跡
- 遺跡の年代 古墳時代後期～戦国時代
- 遺跡及び木簡出土遺構の概要

東條遺跡は、古墳時代後期から戦国時代にかけての複合遺跡で、
堅捨土石流台地から連なる押し出し地形の北東斜面末端部に立地す
る。標高は三六六～三八二

m。遺跡の西に接して堅捨
山に向かう「一本松街道」
と呼ばれる市道があり、古
代からの道と推定されてい
る。

左半分と下部を欠損するが、表面二段目の切り込みに板碑にみら
れる条線が墨書きされる。文字は浮き上がりで残る。裏面の「南無」
は表面と比べて不明瞭。

(1) 「南無」
 (146) × (25) × 3 061

(岡村秀雄)

